

文学部への進学を考えている皆さんへ

文学部教務委員会委員長 鈴木 泉

5月18日・19日に開催予定であった文学部進学ガイダンスは、新型コロナウイルス感染症拡大を避けるために中止としました。本来なら、その場でお話ししたはずのことを手短かに纏めて、皆さんへのメッセージとします。

文学部進学ガイダンスの目的は、皆さんが自分の関心に相応しい専修課程を的確に選ぶことが出来るように、情報を提供するところにあります。ですが、それに先立って、ここでは、文学部を進学志望対象とし、進学志望先の専修課程を決定する際に注意して欲しいことを記します。

「文学部」について

まず、文学部という学びと研究の場について、よくある誤解を解いておきたいと思います。いきなりですが、「文学部」という名称はどこで分節化されるのでしょうか。文学・部でしょうか。世間一般の多くの人はそのように考えているようです。ですから、文学部の教員をしていると自己紹介すると、先生は小説など読んでお給料をもらっているのだから、楽なものですね、と言われることがあります。このような理解は様々な意味で間違っています。まず、文学部が文学・部と分節化されるとするなら、詩、戯曲、小説などの文学を主に研究するところということになります。そうではありません。文学部は、まずは文・学部であり、古代中国語を専門とする大西克也文学部長の言葉を借りるなら、「文」とは「紋様、文字、文字で記書かれた文献、文献に記された思想内容、そして人間の文化的・精神的・社会的活動を象徴する文字」のことを意味します。ですから、文学部とは、人間の文化的・精神的・社会的活動を学び、研究する場ということになります。そして、そのような研究の重要な一つの柱として狭義の文学研究も存在し、文学部の重要な一翼を担っています。（文学研究ですから、高貴な意味で楽しいものではあるにせよ、単なる娯楽ではないという意味で先の発言が根本から間違っていると付け加えたら、蛇足ということになるでしょう。）

東京大学の文学部には、現在、27の専修課程があり、文学部に進学する場合には、その一つに所属することになります。2016年に人文学科一学科に統合されましたが、1963年以来半世紀以上に亘って思想系、歴史系、言語・文学系、行動・社会系という四つの学科に大きく括られていました。この学科の区分が、東京大学の文学部において教育・研究がなされている学問の主な領域を示しています。そして、本年度これから行われる進学選択においては、思想系の七つの専修課程から構成されるA群、歴史系の五つの専修課程に対応するB群、C群、D群、E群、F群、言語・文学系の十二の専修課程から構成されるG群、行動・社会系の三つの専修課程に対応するH群、I群、J群のいずれかを志望し、A群とG群に進学が決まった場合には、進学内定後（10月）に所属する専修課程をそれぞれの群の中から選ぶことになります。（詳しくは、既に配布されている「2021年度 進学選択の手引き」を参照して下さい。）

志望決定に際して

さて、こういったガイダンスに参加される皆さんに対して、進学先の志望決定に関して強調しておきたいのは次の二つです。

まず、文学部を構成する専修課程は 27 もありますから、その中には高校や前期教養課程において諸君が触れてこなかった学問領域があると思います。若さの特権は、可能性の枠を最大限広げることにあると私は考えます。生まれ落ちた赤ん坊には無限な可能性があるように思われますが、無限な可能性ということは空虚なもの言いではなく、具体的な選択の可能性を最大限広げた上で、自らに最適な選択が出来るように遭遇の機会を組織化することが重要です。文学部でどのような学問を学ぶことが出来るのか、よくよく調べた上で、進学先の志望を決定してもらいたいと思います。そのための資料として文学部紹介のための冊子『Prospectus』、各専修紹介のための資料を、以下、ダウンロード出来るようにしました。進学選択のための参考にして下さい。

次いで、既に関心が固まっている場合に、比較的隣接した学問を教育・研究している複数の専修課程の間で迷うことがあるでしょう。文学部内の専修課程だけでなく、教養学部を始めとする他の学部の専攻等との間で迷うこともあると思います。その場合には、専修課程や専攻に関する一般的な説明よりは、現在どのような教員が教えているかということが大事ですから、上に挙げた資料の他、それぞれの専修課程や専攻によって開設されているホームページを参考にして下さい。そして、開催予定であったガイダンスにおいては、各専修の教員や学生がブースを設定して、直接質問を受け付けることになっていましたが、それがそのような迷いを解決するのに役立つ場となるはずでした。その代わりに、5月18日正午から19日の間、メール等での質問を受け付けることにしましたので、各専修の窓口を確認の上、質問をして下さい。同様の質問が多かった場合には、このウェブサイトにおいて纏めて回答します。個別の回答が望ましい場合には、個別にご返事します。

対面での進学ガイダンスを開催することが出来なかったことは残念ですが、上に挙げた冊子や資料、さらには質問の機会を活用して、出来るだけ望ましい進学選択をされることを期待します。そして、多くの諸君と来年は対面でお目にかかれることをも期待します。